

## 福岡県北九州市小倉南区・平尾台

福岡県北九州市小倉南区にある平尾台は、日本三大カルストの一つに数えられる。

平尾台は標高300～700<sup>メートル</sup>、わが国有数の石灰岩台地で、裸出カルストの北東部と、被覆カルストの南西部に分けられるが、北東部の裸出カルストの著しい地域は国指定の天然記念物になっている。

台地上には、大小様々な石灰岩柱が並ぶ羊群原と呼ばれている所や、すり鉢状のドリーネも各所にあり、また<sup>いにしえ</sup>古の修験者たちが厳しい修行をしていたという鍾乳洞などがいくつも点在する。

平尾台開拓は、第二次大戦まで陸軍の演習地だったところに、47年から戦災者や海外からの引き揚げ者など55世帯が入植した。

観光地としては素晴らしい景観だが、農業には適した場所ではなく、北九州地方の開拓地でも売れ残った場所だった。草原に露出している石灰岩を縫うように開墾していったが、非常に困難であった。

当時の様子を開拓碑には「食料、資金に乏しく夢と現実のはざまの中、生活苦、体力の限界などで下山するものも出た。何とか踏みとどまった人たちの苦労は想像を絶するものであった」と刻まれている。

カルストの特徴の一つに、降った雨は鍾乳洞がある地下へと流れるため、基本的に地上に川が無く、水が乏しかった。ダイコン、ニンジン、ゴボウ、ジャガイモ、キャベツなどのような乾燥に強そうな作物が育てられたが、中でもダイコン、キャベツの2つが主に生産された。寒暖差があるため、辛味がある平尾台大根として人気があった。ドリーネと呼ばれる窪地に流れ込んだ土を利用して、ゴボウが作られたこともあった。

酪農、肉牛経営も見られたが、やはり水が乏しいということもあって長続きせず、今は畜産経営は行われていない。

05年に開拓者37名が当時を回想し、平尾台開拓記念碑を建立した。

現在も、2戸の農家が主にダイコン、キャベツを生産している。

## 福岡県北九州市小倉南区・平尾台

- ①調査日 2020年6月24日
- ②所在 北九州市小倉南区平尾台町
- ③地区の沿革
- ④設置年月日 平成17年5月
- ⑤設置者 開拓者
- ⑥碑名 開拓記念碑
- ⑦碑文（表面） 平尾台開拓記念碑
- ⑧副碑（表面） 昭和二十年八月十五日、日本は長期戦争の爪痕を深く残して終戦を迎える。  
混沌とした世情の中で、海外引き揚げ復員など次々と帰国、日本国民は極度の食糧難に陥った。  
そこで政府は、軍用地を払下げ食糧増産にあたった。ここ平尾台も昭和二十二年より戦災者、海外引き揚げ者など五十五世帯が開拓者として入植した。  
食料、資金に乏しく夢と現実のはざまの中 生活苦、体力の限界などで下山するものも出た。何とか踏みとどまった人達の苦労は想像を絶するものであった。  
ここに開拓者三十七名、当時を回想し記念して平尾台開拓記念碑を建立するものである。  
開拓者 37 名氏名 平成十七年五月吉日
- ⑨現在の状況 地区内で管理されている。

